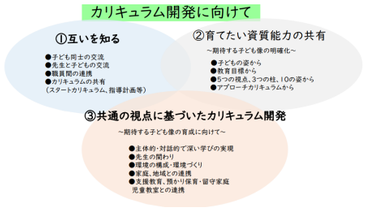
令和5年度
架け橋プログラムに係る
幼保こ小連携担当者連絡会



教育委員会学校教育部学校教育支援室　児童生徒支援課
学校教育部学校教育室　教育研修課/教育指導課
枚方市子ども未来部子育て支援室
私立保育幼稚園課/公立保育幼稚園課

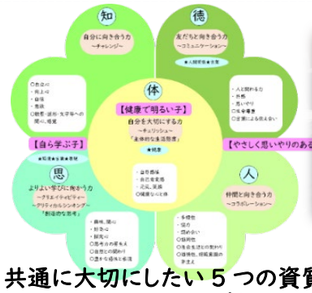
「幼保小架け橋プログラムに関する調査研究事業」2 年目の今年度は、どの地域においても活用可能な枚方版架け橋カリキュラムを開発することを目的に、校区体制の定着とカリキュラム作成を見通した連携の推進を図り、市主催連絡会、研修を実施した。

《第１回幼保こ小連携担当者連絡会》

・日時：令和5年5月9日(火) 15:00 ～ 17:00
・場所：たまゆらイベントホール(輝きプラザきらら7階)
・対象：管理職等
　＊第１回開催にあたり、顔合わせを行うため
・目的：教育・保育の質の向上が確実に図られる、よう幼保こ小の連携を推進する。
・内容：・國學院大學　田村教授の講演視聴及
　・校区ごとの顔合わせや情報交流
　・年間予定や連携内容の検討
　・活用ツール使用説明など

＊校区別に小学校、公私立就学前児童施設の先生方が顔を合わせ、架け橋期の子どもたちに対する願いや思いを語り合うところからスタートした。
※事務局からモデル地域が作成した「校区で育てたい資質能力」に3つの資質能力や幼児期の終わりまでに育ってほしい姿、チャレンジやコミュニケーション等を含む小中学校で大切にしている5C を位置づけたクローバー図について説明をする。すべての校区がモデル地域の実践を参考に、様々な取組を展開し、地域の特色を生かした「架け橋期カリキュラム」開発へとつながっていけるよう、話し合われた。

①互いを知る
●子ども同士の交流
●先生と子どもの交流
●職員間の連携
●カリキュラムの共有
（スタートカリキュラム、指導計画等）



共通に大切にしたい５つの資質能力（クローバー図）

《第２回幼保こ小連携担当者連絡会》

・日時：令和5年8月2日(木) 14:30 ～ 17:00
・場所：たまゆらイベントホール(輝きプラザきらら7階)
・対象：幼保こ小連携担当者
・目的：事例の共有やカリキュラム検討に向けた情報共有
・内容：・モデル地域の取組
　「カリキュラムの検証について」
　・接続の取組について事例の共有
　・講義・演習　神戸常盤大学　山下　敦子　教授
　「幼小接続において大切にしたい資質能力について」
　・校区別交流　情報交流

②育てたい資質能力の共有
～期待する子ども像の明確化～
●子どもの姿から
●教育目標から
●5つの視点、3つの柱、10の姿から
●アプローチカリキュラムから

先進校のスタートカリキュラムやモデル小学校区の取組について実践報告後、神戸常盤大学　教育学部　山下　敦子　教授による講義「あと伸びする子どもの育成−学びの連続体を意識した保育・教育−」では、子どもにとって良いことをつなぐ、学ぶことが楽しい気持ちをつなぐことの意義などを学び、２学期に向けた連携・接続に向けた意識が高まる。

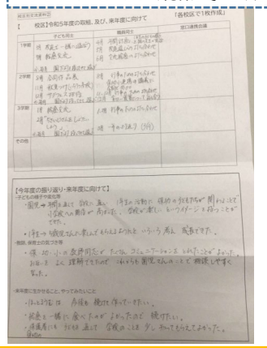
各校区で架け橋期に育てたい資質能力について検討していく中で、
・１枚の写真から意見交流する**フォトチャット研修を体験する。**
※事務局から子ども同士の交流後の振り返り等において、子どもに育っている学びの芽を読み取る際にモデル地域が作成した**クローバーの視点**（幼児期の終わりまでに育ってほしい姿・枚方版 ICT 教育モデル5C など子どもたちに育てたい資質能力を５つに整理した視点）を活用していくことを提案する。

③共通の視点に基づいたカリキュラム開発
～期待する子ども像の育成に向けて～
●主体的・対話的で深い学びの実現
●先生のかかわり
●環境の構成・環境づくり
●過程地域との連携
●支援教育、預かり保育
　・留守家庭児童教室との連携

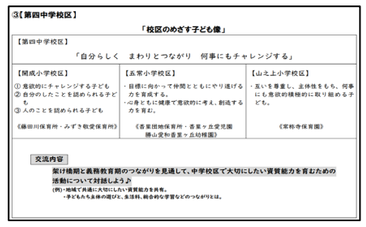
《第３回幼保こ小連携担当者連絡会》

・日時：令和6年１月23日(火) 15:00 ～ 17:00
・場所：たまゆらイベントホール(輝きプラザきらら7階)
・対象：幼保こ小連携担当者
　・目的：「地域で育みたい資質・能力」や「令和6年度スタートカリキュラム」を通して、これからの見通しなどの情報共有
・内容：・「クローバー図を手掛かりとして資質能力をつなげる」
　・ 架け橋期のカリキュラム作成に向けて」
　・講義・演習　大阪教育大学　佐久間　敦史　准教授
　「共通の視点を生かした架け橋期のカリキュラム開発に向けて」
　・校区別交流 「スタートカリキュラムの振り返り」
　「年間計画の振り返りと来年度の交流に向けて」

＊小学校校区で、校区の小学校連携担当教諭と就学前施設の職員がスタートカリキュラムを囲んで、今年度の交流や子どもの様子を話し合いながら、１年生入学当初の環境や、大切にしたい観点等を話し合われた。



枚方版架け橋コンパス



※事務局からモデル地域がカリキュラム作成に向けてクローバー図を活用した交流活動を実践された経過を踏まえて開発した「枚方版架け橋コンパス」について説明をする。

どの地域においても活用可能な
枚方版架け橋カリキュラム
（枚方版架け橋コンパス）
の周知

・モデル小学校から校内の体制づくりや協力体制の工夫、生活科合同授業保育の成果などを報告、来年度に向けて中学校区で育てたい資質能力について意見交流した。

《架け橋プログラムに係る管理職研修》

・日時：令和6年2月19日(月) 14:30 ～ 17:00
・場所：教育文化センター
・対象：就学前施設長、小中学校管理職
・目的：今年度の振り返りをもとに来年度に向けた交流を図る
・内容：・「枚方版架け橋コンパス」について
　・実践報告　枚方市立香里小学校
　「管理職としてのカリキュラム・マネジメント」について
　・ 講義・演習：國學院大學　田村　学　教授
　「架け橋期のカリキュラムを踏まえた幼保小連携・接続に向けて 」
　・中学校区交流《スタートカリキュラムについて》
　「中学校区でめざす子ども像について」

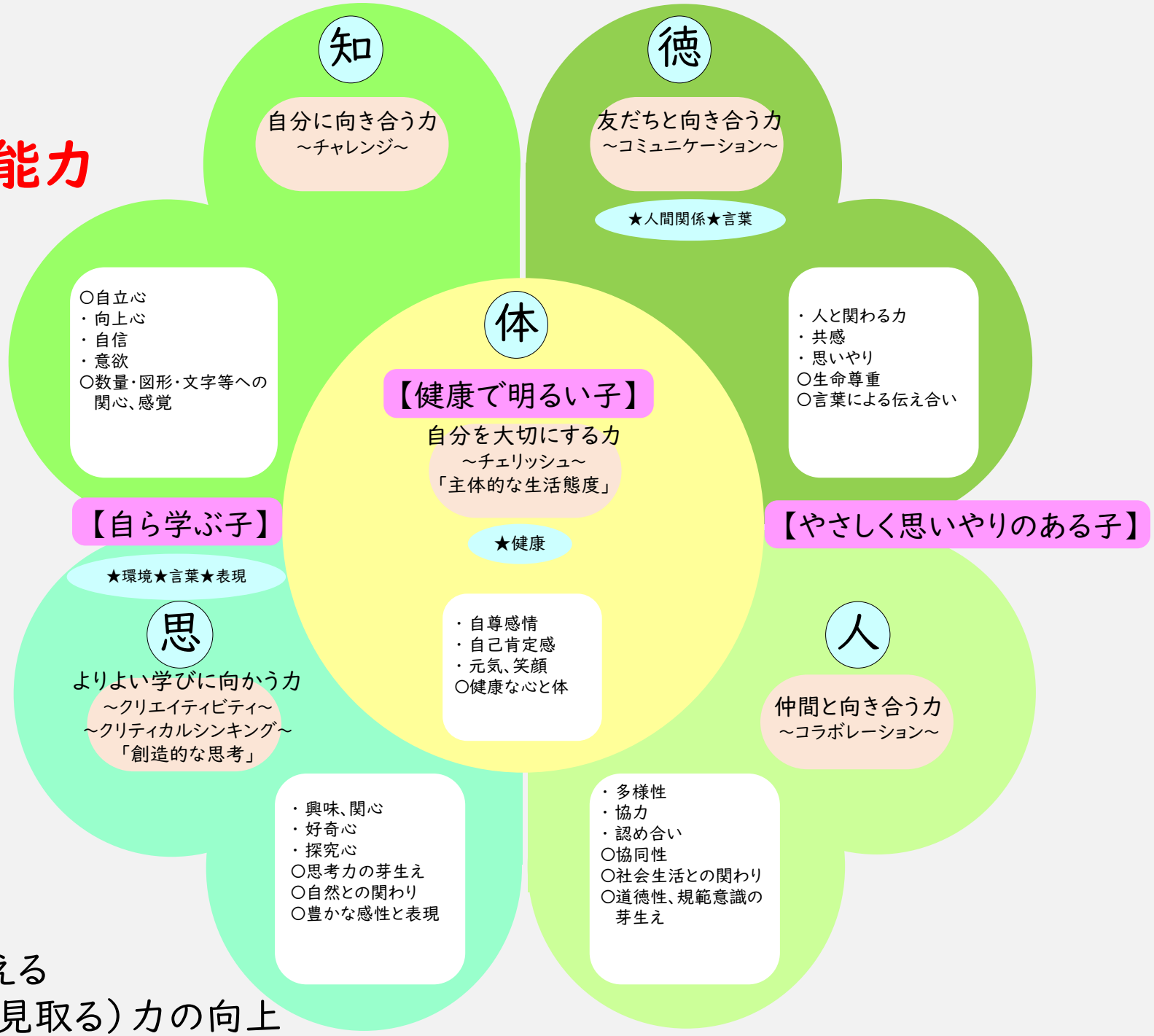
幼保小の架け橋プログラムについて

架け橋期のカリキュラム表
「枚方版架け橋コンパス」について

クローバー図

モデル地域で育みたい資質・能力

豊かな自然環境を通して、
主体的に自己を発揮しながら
学びに向かう力を育成する



大切にしたい視点

主体的・対話的で深い学びの実現を支える
先生のあたたかな子ども理解（子どもを見取る）力の向上

資質・能力がつながるイメージ図

18歳

学びに向かう力・人間性等

枚方市の教育理念　夢と志を持ち、可能性に挑戦する”枚方のこども”

コラボレーション
仲間と向き合う力

コミュニケーション
友だちと向き合う力

知識・技能

思考力・判断力
・表現力等

クリエイティビティ
よりよい学びに向かう力
クリティカル シンキング

チャレンジ
自分に向き合う力

架け橋期

生きる・遊ぶ・学ぶことが楽しい！
自分大好き♡

友だち・仲間と一緒によりよく生きたい・遊びたい・学びたい！
友だちっていいな♪
互いを大切にし合う態度☆

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

5領域を総合的に学んでいく姿〈心情・意欲・態度〉

チェリッシュ　自分を大切にする力

0歳

生命の保持
（生命の尊さに対する感性・健康で安全な生活を送る習慣・態度）

情緒の安定
（自己肯定感・他人を大切にする心）

カリキュラム開発に向けて

①互いを知る

●子ども同士の交流
●先生と子どもの交流
●職員間の連携
●カリキュラムの共有
（スタートカリキュラム、指導計画等）

②育てたい資質能力の共有

～期待する子ども像の明確化～

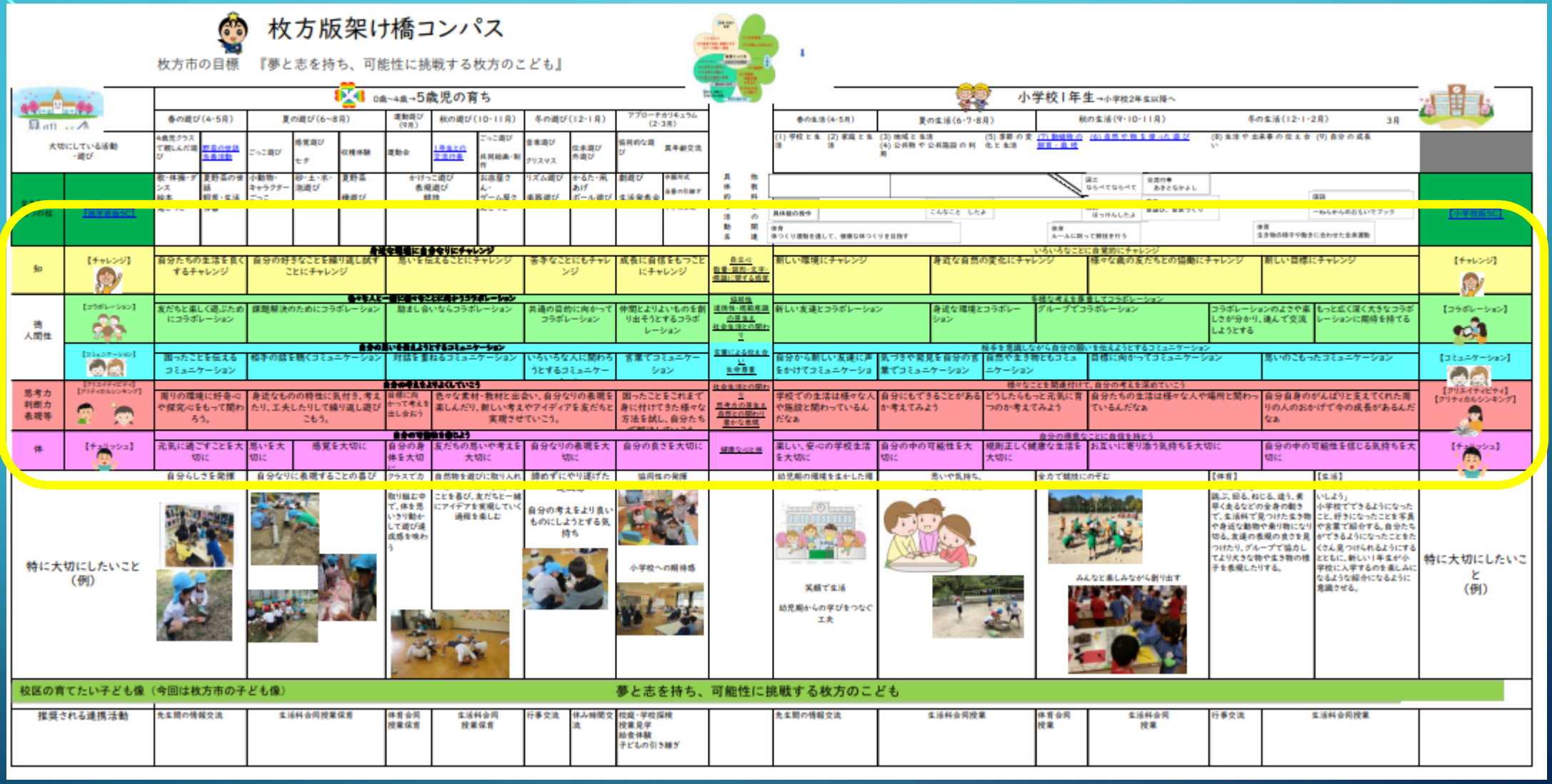
●子どもの姿から
●教育目標から
●5つの視点、3つの柱、10の姿から
●アプローチカリキュラムから

③共通の視点に基づいたカリキュラム開発

～期待する子ども像の育成に向けて～

●主体的・対話的で深い学びの実現
●先生の関わり
●環境の構成・環境づくり
●家庭、地域との連携
●支援教育、預かり保育・留守家庭
児童教室との連携

架け橋期の学びの系統性を見通せる表に


枚方版架け橋コンパス
枚方市の目標　『夢と志を持ち、可能性に挑戦する枚方のこども』
0歳~4歳→5歳児の育ち
小学校1年生→小学校2年生以降へ
特に大切にしたいこと（例）
校区の育てたい子ども像（今回は枚方市の子ども像）
夢と志を持ち、可能性に挑戦する枚方のこども
推奨される連携活動

5C＋1（チェリッシュ）

どんな活動を、どのように行っているのか

枚方版架け橋コンパス
枚方市の目標　『夢と志を持ち、可能性に挑戦する枚方のこども』
0歳~4歳→5歳児の育ち
小学校1年生→小学校2年生以降へ
特に大切にしたいこと（例）
校区の育てたい子ども像（今回は枚方市の子ども像）
夢と志を持ち、可能性に挑戦する枚方のこども
推奨される連携活動
特に大切にしたいこと（例）

持続可能な接続、計画

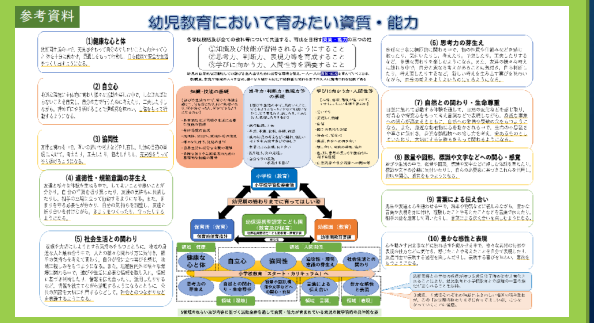
実施日時:2023年11月13日
クラス:きらら小学校　1年1組
　　車塚幼稚園　5歳児さん

交流活動

こうえんで　あきを　さがそう

幼稚園・保育園・子ども園	小学校
活動の様子(写真など)	活動の様子(写真など)
①活動のねらい・めあて 秋らしい自然を見つけたり、小学生のお友だちと一緒に楽しく過ごしたりする	夏とのちがいを意識しながら、あきの特徴を見つけられる
②活動に至るまでの過程や設定の工夫 いつもの散歩コースとはちがう公園へ小学1年生と一緒に出かけることが楽しみになるよう、公園の場所、一緒に活動するグループ名などを確認しておく。	夏とのちがいに着目できるよう、1学期の生活科の授業をふり返りながら秋の自然の様子の変化に関心を向ける。五感を使って、体全体で秋の自然に触れられるようにする。 また、小学校に入ってから初めての下級生との交流なので、どんな時間を創り出したいか目標を決め、活動に臨む。
③成果	たくさんのシミュレーションをして、園児が楽しく過ごせるようにグループごとに作戦を練っていたけいか、どのグループでも自然を見つけつつ楽しく過ごすことができた。中には「6年生みたいに声をかけてあげたら、仲良くなれた」と感想に書いている児童もいた。

交流行事のふりかえり
シート等をリンクさせる



10の姿の資料

タブレットやICTを活用することで、必要な情報にアクセスできるカリキュラム表へ